

2018年3月10日

デジタル・アーカイブ学会研究大会

日本ニュースは何を伝えたのか？

新たな戦争を受け入れるときに人々が見た「映像」1940年～1941年

アリアナ・ドゥフゼル

ARIANA DEGHESELLE

ルーヴァン・カトリック大学大学院



はじめに

- デジタルアーカイブ化された「日本ニュース」
- 1940年から1941年まで（太平洋戦争直前まで）を一覧視聴

何がわかるのだろうか

- ➡ ・ この時期に起きていたことをどう伝えていたか
 - ・ メディアに対する「統制（検閲・指導）」はどのようなものだったのか
 - ・ 新たな戦争を人々が受け入れるためにどのような伝え方をしたのか

「日本ニュース」とは

- 当時唯一の映像報道
- 報道メディアとしてメインではなかった ⇒ 新聞、ラジオ、雑誌も
- 情報局、陸軍と海軍の制限の中で作られた：検閲と指導

- 回数の限られた上映（週一回の公開 年間52回）
- とはいえ、法律で映画館での上映が義務化
- 一人当たり一年間に7回視聴していた（1941年の映画人口から）

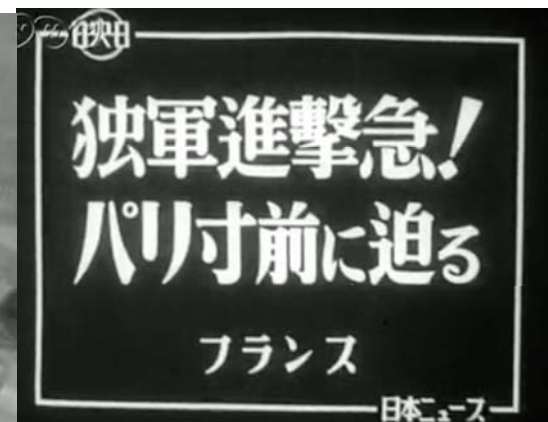
日本ニュース



タイトル映像



重慶爆撃の海軍機



開戦の日・大本営会見



進軍する陸軍部隊・中国戦線

国民にとっての「日本ニュース」とは

- ニュースは映画館で観るものだった
- テレビもネットもない→再確認の方法が全くない時代
- 当時の人にとって、映像ニュースとは何？
 - ～映画の技術、映像の撮影、編集など制作について一般の人々はほぼ知識がなかった
 - ～映像は真実を述べている、客観的なものだとして受け止める

激動の時代～1940-1941～

- 日中戦争の泥沼化（1940年～）
- ドイツによる欧州席卷（パリ占領：1940年6月）
- ドイツ、ソ連侵攻（1940年6月）
- 八路軍の大攻勢（1940年8月～12月）
- 日本軍北部仏印進駐（1940年9月23日）
- 日独伊三国同盟（1940年9月27日）
- 日本軍による三光作戦開始（10月～）

激動の時代～1940-1941～

- 日米交渉 (1941年4月～)
- 日本軍南部仏印進駐 (1941年7月28日)
- 英米蘭による日本への経済封鎖 (1941年8月)
- 帝国国策遂行要領 (1941年9月) で開戦を決定
- 米、日本側にハルノート提示 (1941年11月)
- 日本軍ハワイ、マレー半島攻撃 (1941年12月8日)

「日中戦争」をどう伝えたか

- 構成・表現・映像

- 地上戦

- (突撃 ➡ 激しい戦闘 ➡ 勝利 ➡ 万歳)

- 空襲

- (出発 ➡ 空戦 ➡ 殲滅 ➡ 全機無事帰還)

- 必ず毎回日本軍が勝つ

- どのニュースも、勝利が近いと思わせる

- 長引く戦争に家族を送り出す国民を納得させなければならないから

「日中戦争」をどう伝えたか

すべてがワンパターンである

- 構成・表現・映像

地上戦

(突撃 ➡ 激しい戦闘 ➡ 勝利 ➡ 万歳)

空襲

(出発 ➡ 空戦 ➡ 殲滅 ➡ 全機無事帰還)

必ず毎回日本軍が勝つ

どのニュースも、事変の勝利が近いと思わせる

長引く戦争に家族を送り出す国民を納得させなければならないから

「日中戦争」 どう伝えたか

その映像ニュースを見るとき人は何を思うのか

- 「勝っているなら、なぜ終わらないのか」
- しかし、ニュースと現実の差は否定できない（増え続ける戦死者）
- 「泥沼化した戦争」のイメージを一層強めるものに

映像と言葉によるイメージ

- 強さを伝える言葉「」「飛行機」「我々は強い」
- 「我々」「我が軍」「我に」 ～ 軍と制作者、国民が一体化
- 音声でも効果を高める 効果音の後付け
- 正当性を強調する～「聖戦完遂」
- 厭戦（えんせん）につながることを一切避ける
- 中国人兵士や難民、死体は「映さない」（脱人間的）
- 戦争が、つらいもの、過酷なものと描かない
- 日本軍の占領地は平和であることを強調

日本軍＝善としてのプロパガンダ



中国の女性たちと日本軍兵士
日本ニュース31号から



仲良し「幸せのあふれる映像」
⇒「戦うのではなく」「救う」



どのようにニュースを作ったのか

- 映っている「もの・こと」は事実
- その映像を、1カットずつ組み合わせていき（モンタージュ）、ナレーションと音楽で意図した「内容」に仕立てていく
- 映像として「客観性を持っている」と思われることが伝え手の「主観」になっていく
- 音声（砲撃音、射撃音や爆音）を付け加えることで、劇的な効果を高める

アメリカをどう伝えたか

- 当局：日中戦争解決の鍵は「アメリカ」だと考えていた
1940年から1941年は
➡ 「敵対するか」「協調するか」に揺れ動いた1年半

ニュースでは「アメリカは敵だ」とは打ち出せない
(当局の指導)

「援蔣」に関するニュース19本中、アメリカが背後にいると名指ししたのはわずか1本

日本ニュースの本質は何か

- 当局の検閲と指導で作られた「国策ニュース」、「プロパガンダ」
勝っていることだけ報道
被害・損失は全く伝えない
遺体や避難民なども描かない
- 国家総動員（戦場や勤労働員）を進めるためのいわば「フェイクニュース」
- とはいえ、貴重な映像記録でもある

現代につなげて 何がわかり 何が学べるのか

- 検閲をはじめ、為政者がメディアをコントロールする
ということはどういうことなのか
メディアと権力の関係を考える
映像コンテンツの”フェイク”とはどういうものなのか
- 日本ニュースをこれからどう活かしていくか
市民のための「メディアのありよう」を考える
あるいは、「リテラシー」を学ぶ・考えるために